

模範愛育班の指定

愛育班を普及し、その活動を充実させるため、次の条件により模範的な愛育班を「模範愛育班」として指定し、見学実習の場とします。

1. 愛育班組織が確立し、その活動が他の模範となるものであること。
2. 愛育班活動の見学実習地として、本会が行う研修会の研修生又は他市町村の愛育班関係者を受け入れることができること。

平成30年度は下記の愛育班を指定します。

埼玉県吉見町母子愛育会

山梨県南アルプス市愛育連合会

「愛育班員の手記」入選作一覧

愛育班員全国大会が第50回目の節目を迎えるにあたり、今回はテーマ「愛育のこころをつなぐ」についての手記を募集しました。

優秀作

県名	氏名	所属	タイトル
山梨県	<small>さかもと</small> 坂本 <small>まいこ</small> 麻衣子	<small>ほくとし</small> 北杜市高根愛育班	愛育の心をつなぐ

佳作

県名	氏名	所属	タイトル
岡山県	<small>ひな</small> 日名 <small>たずこ</small> 多津子	<small>きびちゅうおうちよう</small> 吉備中央町愛育委員会	愛されて育つ未来の宝 ～赤ちゃん登校日より～
長崎県	<small>たなか</small> 田中 <small>みつこ</small> 満子	<small>かわたなちよう</small> 川棚町東部地区母子愛育班	愛育の灯を受け継いで
大分県	<small>ほんなみ</small> 本浪 <small>じゅんこ</small> 純子	<small>うさし</small> 宇佐市宇佐地区愛育会和間愛育班	愛育と平和

手記 優秀作

愛育の心をつなぐ

山梨県北杜市高根愛育班

坂本 麻衣子



私は2年目の愛育班員です。やるからには胸を張ってやりたい。しかし高根愛育班の認知度はまだまだ低く、「何の役に立つの」「個人のことは放っておいて」という率直な声を耳にするたび、自分がここにいる意味を見つけないでいました。

そんな時に、同じ地区の大先輩の班員さんから聞いた話です。その班員さんは休会地区の立ち上げの時から尽力され、「こんな大切な活動はない」「死ぬまでやる」と言われた人です。

ご近所の赤ちゃんが不注意から大ケガをしてしまいました。ある日、ベビーカーを押しているお母さんに声をかけました。「子どもさんはよくなりましたか。」すると彼女はいきなり泣き出してしまったのです。親の反対を押し切って移住してきたものの、知らない人ばかりの中で誰も頼れない。もう帰りたい、と。班員さんは「ご近所さんを頼ってね。いくらでも見てあげる、誰も嫌なんて言いやしないから」と励ましました。やっと安心できたのでしょう。元気になったお母さんは「こんなに大きくなりました」と子どもの顔を見せに来てくれたのです。以来、煮付けのお裾分けをしたり、孫のおもちゃを譲ったりの親交が続いているそうです。

このエピソードは、気持ちが切れそうになるたびに、私を支えてくれました。あの時、声をかけたからよかったのだ。たった1つの「もしも」のために、たとえ99が空振りに終わっても、子育てを見守り関わり続けていく。そのために私たちがいるのだと。

地域に根を張り、人の心を動かし、つなぐ。それが愛育班の役割だと感じています。赤ちゃんとお母さんへの絶妙なおせっかいがもっともっと当たり前になるように…。

そして、今、子育て中のママたちに「自分もいつか愛育に」と思ってもらえることが、私たちの活動の最高の結果であり、評価であり、つながり支えあっていくことのすばらしさだと思うのです。

手記 佳作

愛されて育つ未来の宝 ～赤ちゃん登校日より～

岡山県吉備中央町愛育委員会

日名 多津子



「愛育委員をやってくれない？」嫁いで十年、四人の子供の育児真っ只中の私に、地元の先輩から声がかかりました。「地域の皆さんの健康づくりのために若いあなたの力が必要なのだ」と言われ素直にお受けしました。四十世帯を超える担当地区を子供の手をひいて受診票を携え、声かけをして歩いた頃は、多くの子供たちの歓声があちらこちらに響いていました。

あれから三十年。時は流れ活動が続ける中、少子高齢化が進み合併により新しく誕生した私たちの町は、子育てに優しい町として生まれ変わり、命を育む教育を推進してきました。その中で教育委員会と行政、私たち愛育委員、栄養委員が手をつなぎ、その輪の中で中学生と赤ちゃん、お母さんとのふれ合い体験学習「赤ちゃん登校日」を行っています。

今年も十月に事前学習で愛育委員が中学校を訪問。授業の中で赤ちゃん人形を抱っこしたりあやしたり、妊婦体験をした中学生は、産んでくれ、愛し育ててくれた親への感謝を語ってくれました。そして十一月、「赤ちゃん登校日」当日、町内各地から登校してきた赤ちゃんやお母さんと対面。中学生はお母さんへのインタビュー、赤ちゃんへの声かけや抱っこを通して、見つめ合う中から愛情が芽生え、親になる気持ちを学んでくれたようです。「私もお母さんになりたい。」そう笑顔で話す生徒の澄んだ瞳も輝いていました。

この日、恩賜財団母子愛育会総裁の秋篠宮紀子妃殿下が訪問してくださり、全参加者に優しく命を育む激励のお言葉を賜りました。子育てに悩みながらも日夜励んでいるお母さんたちに、大きな安心と希望を与えてくださり、心から感謝の気持ちでいっぱいとなりました。どこよりも幸せな町づくりのために、愛育の心をつないでまいります。

手記 佳作

愛育の灯を受け継いで

長崎県川棚町東部地区母子愛育班

田中 満子



愛育班に出会って30年余り。当時、私の地区は約130世帯、班員5名で活動していましたが、愛育班を理解している地区の方々は少なかったと思います。班員同士でまずは挨拶からと「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」等の声かけから始めました。

「高齢者の独り暮らしの方にお弁当を作って訪問したいね。」「女性の集まりがあるといいね。」と班員同士で語り合い、高齢の方を対象に始めた「すずらん会」。週に1回公民館に集うようにしました。手芸を班員が交代で教えたり、おばあちゃんたちから教わったり、地区のお祭りでは、端午の節句の旗を集め法被を作るなど、交流を深めながら少しずつ地区の方にも「愛育班さん」と気軽に声をかけていただくようになりました。また、すずらん会で作った作品を集め、ミニ文化祭をした時は沢山の地区の方々に来ていただきました。

その後、すずらん会は「いきいきサロン」として今も続いており、愛育班、食改さんと共にお手伝いをさせてもらっています。月に1回の班員会や年2回の施設訪問、研修会の参加を通して多くの班員との出会いにも恵まれました。仕事との両立も難しいと悩んだ時もありましたが、「皆で分担していこうよ。」の声に励まされ、活動を続けています。

私が今までもこれからも大切にしたいことは、仕事をしていても、できる時にできることを、それから、近所のちょっとおせっかいなおばさんになればと思います。私が、誰も知らない川棚に嫁いできて不安な時に、声をかけてくれた隣の人のひと声がとても嬉しかった、その気持ちを、皆様にお返ししなければと思います。

「こんにちは愛育班です。お変わりありませんか。」の言葉に笑顔を添えて、地区の小さな活動の輪がいくえにも重なり、大きな輪になりました。これからも町中に、愛育の心の輪が広がり長く続くことを願いながら、先輩方が守ってこられた愛育の灯をこれからも灯し続け、次の世代に引き継いでいきたいと思っています。

愛育と平和

大分県宇佐市宇佐地区愛育会和間愛育班

本浪 純子



平成元年に発足した和間愛育班が活動の中に平和というテーマをとり入れたきっかけは、防災頭巾を作った時からです。防災士さんの依頼で、会員で作った頭巾17枚を小学校に持参した折、私は大分空襲の体験を話しました。サイレンの鳴り響く中、山の防空壕まで母に負われて必死に逃げたこと、振り向くと大分の空一面が真赤に染まっていたこと。話しているうち、記憶が甦り、私は不覚にも涙を流していました。でも、子ども達はいぶかしげにキョトンとした表情で聞いています。無理ありません。現在、日本国民の大部分の人が、戦争を知らない世代なのでから。空襲、サイレン、防空壕などの言葉に反応をしないことは当然のこと。その時、私は、戦争の悲惨さや平和のありがたさを語り伝えることを愛育班活動の中にとり入れようと思ったのでした。

月一度の保育園での読み聞かせもその観点で本を選びました。松本みよ子の「ぞうとリンゴ」は、多くの子が涙を浮かべて聞いていました。谷川俊太郎の詩も大きな声で復唱してくれました。「ケンカはするけどせんそうはしない！」

小学校の交流事業でも、「戦時中はゲーム機もボールもなくてこんな遊びをしていたのよ。」とアヤトリやお手玉をしています。お料理教室では、「戦時中はお米もなくてこんな御飯を食べていたのよ。」と大根めしや芋めしをしたこともあります。運転できない私ですが、若い班員さんが食材の買い出しやその他どんな時も積極的に動いてくれました。みんな愛育班活動は本当に楽しいと言ってくれます。そんな後輩に、私は昨年、平和の刻まれた愛のバトンを安心して渡すことができました。役員として最後の年の昨秋、思ってもみなかった秋篠宮紀子妃殿下をお迎えすることができ、こんなに嬉しく励まされたことはありません。これから先も私は、体力の続く限り一班員として愛育班活動に励んでいきたいと思っております。